

開館30年をふりかえって

館長 葛原 克人



これまで長く県民に親しまれてきた岡山県立博物館は、今年、開館30年という節目を迎えた。感慨ひとしおのものがある。

開館当初の昭和40年代半ばごろは、経済の高度経済成長期にさしかかった時期にあたり、また岡山が山陽新幹線の起点・終点であった関係から、あまたの宿泊客を迎え昼夜にぎわい、当館の入館者数も全国屈指の勢いであつたらしい。記録によると、年間50万人をゆうに超えていたようである。博物館ないし文化施設はしばしば閑古鳥が鳴く、と風評の立つ中で、この数字は確かに驚異的なものであつた。当館建設の策定にかかわった先人のもくろみは見事に的中したのである。しかし、ここ数年における入館者数が年間4万人前後と聞かされると、大いに落胆されるのではなからうか。

今年はまだ、奇しくも後樂園築庭300周年

に当たり、これを機として幾多のイベントが企画され盛り上がり、年間の入館者数は往時の100万人近くにまで達し、例年のない伸び率を示す結果が導かれた。喜ばしい限りである。

忘れもしない、昨年8月22日のこと。この日は、わが博物館協議会が開かれ、無事に会議が終了したのち、議長を務められた谷口澄夫先生が館長室で「君、次は博物館だヨ」と、おっしゃったのである。先生の言う「次」とは、実行委員長でもあつた先の築庭300年祭の、その「次」を指すことは明らかであつて、先生の脳裏にはすでに新たな県立博物館構想が深く刻み込まれていたに違いない。

帰り際には、これでは狭すぎる、4、5倍の広さが必要であろう、とか、交通事情も変わったし、駐車場も4、5千台は要るだろう、などご自身の感想をいくつも述べるとともに、早急に「構想委員会」を立ち上げるべきだと主張され、退席されたのであつた。

英知を結集して、新県立博物館の構想を練る時期が到来しているように思われる。

展覧会

☆特別展

江戸時代の教育と閑谷学校

平成12年10月6日～11月5日

特別史跡旧閑谷学校は、西暦2000年に創学330年を迎えました。これを記念して企画されたのがこの特別展です。閑谷学校は岡山藩主池田光政の命を受けた津田永忠らによって、17世紀後半から18世紀初めに建設され、幾多の歴史を経て今日に至っています。「庶民」教育を目的にした学校としては、全国で最も早いものの一つで、その中心的建物である講堂は、国宝に指定されています。この特別展では、閑谷学校の歴史と文化を中心にすえ、その果たした歴史的役割や学校にかかわった人物を浮き彫りにしました。また、美作・備中の諸学校や、萩藩・津和野藩をはじめ他地域の藩校、江戸の湯島聖堂（昌平坂学問所）、大坂の懐徳堂などに関する資料も展示しました。10月9日の倉地克直氏による記念講演では、多数の聴講者の方々が熱心に聴き入っていました。



記念講演会

☆特別展

あおによし

～奈良国立文化財研究所収蔵平城京跡出土品展～

平成13年1月26日～2月25日

奈良国立文化財研究所では、昭和30年以来40年以上にわたって平城京跡の調査研究を行っています。その成果は奈良時代の天皇の住まいや役所の構造、都の様子やそこに住んでいた人々の暮らしなどを明らかにし、古代史の研究

に大きく寄与しています。この特別展では、同研究所に収蔵されている平城京跡出土品を一括して展示しました。平城京の遺物を地方で鑑賞できる機会はなかなかないというのが実情でしょう。その点からも発掘成果を一堂に集めて紹介できたということは、意義深いものです。2月3日に開催した金子裕之氏による記念講演会にはあふれんばかりの聴講者が集まり、また、会期中に行った学芸員による展示解説も好評でした。



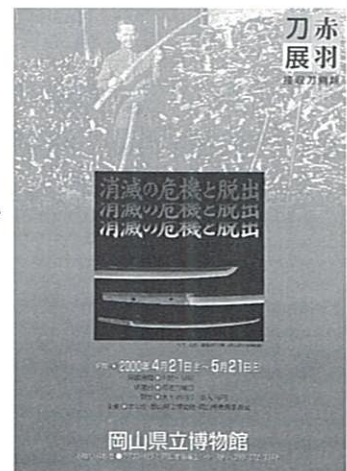
開会式

☆企画展

赤羽刀展 一消滅の危機と脱出

平成12年4月21日～5月21日

第二次大戦後、GHQにより刀剣は武器として接収され、破棄される運命にありました。当時の識者が、刀剣の文化財としての価値を訴え、説得したために一部は消滅から免れました。赤羽刀とよばれるこれらの刀剣が産地へ返却されることになり、岡山県内6施設に、合計27口が里帰りしました。これを機に、文化庁所有の13口を含め、研磨済み刀剣27口とその他合わせて89口の赤羽刀を展示し、刀剣とは何か、文化とは何か、忘れかけている戦争とその処理とは何かを考えてもらいました。



☆企画展

30年前のおかやま

平成12年7月20日～9月3日

昭和46年8月に開館した岡山県立博物館は、平成12年に開館30年目を迎えました。そこで、これを記念して、岡山県立博物館が開館した昭和40年代の資料を展示し、当時の人々が生きてきた時代や社会を振り返りました。塩田やい草、SLや公害といった産業関係の資料、テレビや冷蔵庫などの家電製品、さらにはおもちゃや教科書などを展示し、多くの来館者に興味を持ってもらうと同時に、どういった時代であったのか振り返っていただきました。



展示風景

☆後楽園築庭300年協賛の展示

「後楽園御庭焼展」 (11月11日～1月21日)

「後楽園仏像修復完成記念展」 (1月26日～2月25日)

☆特別陳列

このほか、春・夏・秋・冬季展の中で、行った主な展示を以下に紹介します。

「錦菫」 (3月11日～4月16日)

「鯉喰神社発見の弧帯文石初公開」 (5月25日～6月25日)

「足利將軍家の古文書」 (5月25日～6月25日)

「近世の遊楽園・旅行の風俗」 (6月27日～7月16日)

「近世地方文書入門」 (6月27日～7月16日)

「面と獅子頭」 (6月27日～9月3日)

「捺染のいろいろ」 (9月8日～10月1日)

「岡山藩主の書画」 (9月8日～10月1日)

「十王と十三仏」 (9月8日～10月1日)

「密教の美術」 (11月11日～12月17日)

「地図と絵図」 (11月11日～12月17日)

「岡山市高塚遺跡出土流水文銅鐸重要文化財指定記念

展」 (11月11日～12月3日)

「国宝赤韋威鎧・太刀一文字」 (1月6日～2月4日)

「衣のいろいろ」 (1月6日～1月21日)

☆「里帰り」陳列

文化庁の「博物館所蔵の考古資料相互活用促進事業」により、平成12年9月8日～10月1日まで、東京国立博物館が所蔵する岡山県内出土の資料を陳列しました。展示資料は、倉敷市王墓山古墳の出土品一括と真備町妹出土の流水文銅鐸1点でした。

☆開館30周年記念特別講演会ほか

昭和46年8月28日に開館した当館が平成12年8月で30年目を迎えました。これを記念して、8月17日に、民俗学者の神崎宣武氏をお招きし、「都市の民俗」と題した講演会を開催しました。先生の話術に引きこまれ、大勢の方々が興味深く聴講され、意義深い一日でした。また、開館記念事業の一環として、8月27日を入館料無料とし、同日には、小・中学生とその保護者20組を対象に、「博物館探検」と題し、普段は立ち入ることのできない、展示室以外の博物館内部を学芸員の案内のもと、見ていただきました。

受贈資料

◇赤羽刀

文化庁から、接収刀剣赤羽刀が岡山県立博物館に譲渡されました。鎌倉時代の近房・守利・元次・真行をはじめ、各時代の備前・備中・美作刀が合計84口です。順次研磨していく予定。

◇桜井孝氏寄贈矢立

このコレクションは、江戸時代後期を中心にした99本からなっており、携帯用筆記用具の歴史と、工芸技法や意匠の変遷を知る上での好資料。

◇大橋昇氏(大橋刃物店)寄贈目立て道具

雁頭鋸 氷鋸 手曲がり鋸 引廻し鋸
ベニヤひき 刃わけ鋸 しのぎやすり はさみ板
やっこ 道具箱 など

◇磯崎加世氏寄贈資料

雛飾り 重箱 後楽園真景及詳誌 貝合わせ
はこせこ 硯蓋(沈金) 茶道具絵図 など

◇秋山国男氏寄贈資料

柳行李 薬箱 など

◇山崎聡氏寄贈資料

備中売薬懸場帳 もろぶた など

◇大倉一枝氏寄贈資料

関取友浦の明荷 行司軍配と行事衣装

◇筒井弥江子氏寄贈資料

ふくさ など

◇水島明美氏寄贈資料

ミシン ナショナル1号アイロン 上履き入れ など

◇佐野隆司氏寄贈資料

電話機 写真パネル など

普及事業

博物館講座

「岡山の歴史と文化」

本講座は、岡山県に伝えられる文化遺産を正しく理解し、継承していくために、できるだけ実物資料にふれながら、郷土の歴史と文化を学習するものです。例年多くの方々に参加をいただき、好評を得ています。

本年度の現地見学会は、県外に飛び出し、香川県高松市を訪れ、一昨年秋に開館した香川県歴史博物館と栗林公園にて、香川の歴史と文化にふれました。

講座内容

開講日	テーマ	講師
6/9(金)	池田家の秘薬 古瓦の歴史	学芸員 木下 浩 館長 葛原 克人
6/16(金)	十王と十三仏 足利將軍家の文書	学芸員 中田利枝子 学芸員 三宅 克広
6/23(金)	現地見学 お向かいの香川へ (香川県歴史博物館・栗林公園)	現地講師 本館学芸員
6/30(金)	銅鐸の話 岡山の甲冑	学芸員 小松原基弘 総括学芸員 白井 洋輔

平成13年度事業のお知らせ

○「岡山県の歴史と文化」

春季展 平成13年3月2日(金)～5月20日(日)

夏季展 平成13年5月23日(水)～8月26日(日)

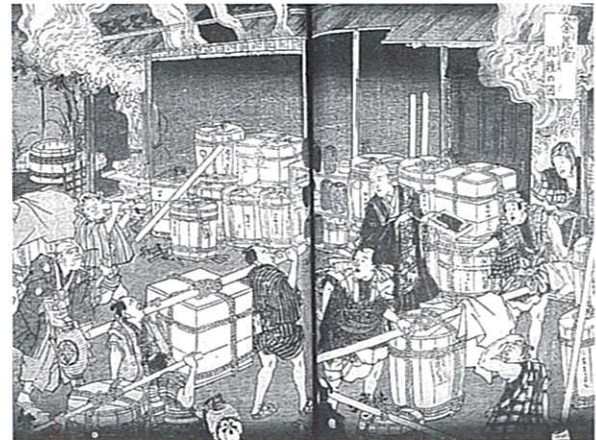
秋季展 平成13年8月31日(金)～10月21日(日)

冬季展 平成13年12月1日(土)

～平成14年3月3日(日)

○特別展「命を与ふ」

平成13年10月26日(金)～11月25日(日)



頃痢流行記 (岡山県立博物館蔵)

○特別展「王墓を彩る～特殊器台の系譜～」

平成14年2月1日(金)～3月3日(日)



重要文化財
宮山遺跡出土特殊器台
(岡山県立博物館蔵)

○企画展「受贈資料品展 I」

平成13年7月20日(金)～8月26日(日)

○特別陳列「和船模型住吉丸受贈記念展」

平成13年4月25日(水)～5月20日(日)

○博物館講座「岡山県の歴史と文化」

平成13年6月1日～6月22日(毎週金曜日)

岡山県立博物館だより No.55

発行日 平成13年3月31日

発行者 岡山県立博物館

館長 葛原 克人

岡山市後楽園1-5

☎(086)272-1149

ホームページアドレス

<http://www.pref.okayama.jp/>

kyoiku/kenhaku/hakubu.htm